

出張報告

1. 訪問者： 佐野元彦（海洋大）・三井雅子（海洋大・M2）・岡村拓実（海洋大・M2）
2. 訪問国・機関名： SEAFDEC/AQD、フィリピン大学ビサヤス校
3. 相手国対応責任者： AQD 次長 Ko-ichiro MORI、AQD 研究部長 Leobert dela PENA、ビサヤス校准教授 Erlinda C. LACIERDA
4. 訪問日程： 2020年1月12日～15日
5. 活動内容：

1月12日 成田ーマニラーイロイロ移動 イロイロ泊

夕刻マニラ近郊の火山が噴火し、マニラ空港が閉鎖されたが、直前にイロイロ行きが出発し、事なきを得た。火山のカルデラ湖で養殖されていたティラピアが全滅したことであった。

1月13日

午前、BALIAO AQD 所長、森次長、de la PENA 研究部長等の出席の元、本プロジェクトの進捗や研究、交流状況について意見交換した。さらに、本拠点体制を活用して次期の課題を申請すべく、12月にインドネシア大使館 ASEAN 代表部を訪問して得た JAIF の情報について意見交換をし、AQD を実施母体として、申請課題を作り上げていくこととした。

午後、AQD の施設の見学を行った。



所内見学：ミルクフィッシュ親魚



産卵された受精卵



ミルクフィッシュふ化槽



アワビ類の種苗生産稚貝



魚病検査部署：細菌分離プレートや生化学性状試験のチューブ

1月14日

午前には市場見学を行った。午後にはフィリピン大学ビサヤス校を訪問し、学部長を表敬訪問するとともに、学内の見学を行った。



市場見学：小型のマグロ類も売られている



ハタ類も結構多い



養殖ミルクフィッシュは骨抜き開きでも販売



ビサヤス校訪問：左端 LACIERDA 先生、2 番目が学部長



フィリピン大学のシンボルの前で

1月15日

噴火による閉鎖が解除されたマニラ空港経由で、特段遅延なく無事帰国した。

6. 問題点、改善点、提案等:

特になし